

“私たちは何を作るべきだろうか？ どのように作るべきだろうか？” 科学と化学とテクノロジー

三菱化学株式会社 瀬戸山 亨
1908182@cc.m-kagaku.co.jp

最近の世界、日本を取り巻く状況はかつてないほど不確定要因が多い。世界全体の課題としてみると、米国・中国間の覇権争い、気候変動の問題と CO₂ 排出抑制という課題、中国経済の減速および東アジアでの国境域での紛争、中東情勢の混沌とイスラム過激派の問題、EU 内の経済格差問題の顕在化、shale 革命と原油価格の暴落等、日本の課題という視点でみると、少子高齢化と人口減少、経済の停滞と有効な次の一手の欠如、非正規社員の増加と貧困層の増加、中国、韓国等の近隣諸国との軋轢、国際社会の中での日本の相対的な地位の低下等、深刻な問題が山積している。

一方、Science、Technology の進展・深化は目覚ましく、革新技術を駆使した新製品、商品群が次々に生まれ、この流れをつかんだ企業は大きく成長する一方、「あの企業が・・・」と思えるような大企業が凋落していくことを目の当たりにする。世界の中で存在感のある日本企業がどれほどあることか？

21 世紀の今後の世界・日本はどうなるのだろうか？ 全く予測不可能なものなのだろうか？ 社会情勢の変化の傾向・方向性は予測できないだろうか？

個人的には、方向性にある程度の幅を許容し、中・長期的視点でみればこれらはある範囲内、ベクトルの方向性は予見しえるのではないかと考えている。この観点でみると、その変化に伴う必然的に来るべき社会が具備すべきものも、同様にある程度想像・予想できるのではないだろうか？ すなわち完全に特定することはできないまでもある程度の必然性をもって素材とか商品のイメージのようなもの=あらまほしきものは思い描けるのではないだろうか？

このあらまほしきものの製造過程において、進展しつつある Science・Technology がどういう寄与の仕方ができるか？ という視点で考えれば、Science の深化に関わる者、技術開発・商品開発といった Technology に携わる者、どちらも自分たちの立ち位置をしっかりと捉えることができるだろうし、具体的に行動、発信できるのではないだろうか？

産業界に身を置き技術開発に携わる者として、閉塞感のある日本を何らかの希望を見出すにはどうすればよいだろうか？ 日本が世界の中で再び輝けるにはどうすればよいだろうか？ その為の技術開発の方向性、戦略はどうあるべきか？ と言ったことを常日頃、考えている。GDP に代表される内向きで経済の実態を表さない指標ではなく、世界の中での日本の発信という立ち位置で考えれば私たちには幾つも取りうる選択肢があると思う。

化学産業はエネルギー・化学原料等の巨大インフラに直結する基盤産業的な立場から、情報・通信、ヘルスケアといった産業領域において差異化・高機能化により高収益をもたらすに商品の鍵を握る機能素材・革新的 device 等の提供にまで及ぶ広いスペクトルで製品を供給している。このことは、今後を産業構造の変化を注意深く予測すべき立場でもあるし、しなければならぬ立場であることを意味しているのではないだろうか？ そういう立場から、“私たちは何を作れば良いか？ どのように作るべきか？” について私見を述べてみたいと思う。